

## 第9回教育委員会臨時会議事要録

詳細 教育総務部教育総務課 電話03-3981-1141

附属機関又は 会議体の名称	教育委員会臨時会	
事務局（担当課）	教育総務部教育総務課	
開催日時	平成22年7月30日 午前10時00分	
開催場所	教育センター	
出席者	委員	加藤 正克（委員長）、清田 明（委員長職務代理者）、 三神 和子、廣田 悦造、三田 一則（教育長）
	その他	教育総務部長、教育総務課長、教育指導課長、統括指導主事
	事務局	教育総務課庶務係長、教育総務課庶務係主任主事
公開の可否	公開 傍聴人数 10人	
非公開・一部公開の 場合は、その理由		
会議次第	1. 第39号議案 豊島区立学校教科用図書採択について（継続）	

## 審議経過

委員長)

第9回教育委員会臨時会を始めます。本日の署名は三神委員と廣田委員にお願いいたします。なお、本日は傍聴の申し込みが10名いらっしゃいますが、傍聴を認めてよろしいでしょうか。(委員全員 了承)

(1) 第39号議案 豊島区立学校教科用図書採択について(継続)

委員長)

ただ今から、平成23年度用豊島区立小学校使用教科書の審議を行います。それでは、配布資料の確認を事務局にお願いします。

<教育総務課長 資料説明>

委員長)

次に、教育総務部長より、本日の審議予定について説明してもらいます。

教育総務部長)

前回に引き続き、小学校教科用図書の採択をお願いいたします。本日は、小学校算数、家庭、理科、生活の4教科について審議をお願いいたします。調査対象とした教科書は、小学校教科書20種107点の教科書であります。本日も長丁場となりますが、豊島区の子どもたちのために、適切な教科書の採択が行われますよう、お願い申し上げます。

委員長)

それでは、ただ今から、小学校教科書の審議に入ります。教科書の審議の方法について、事務局から説明してもらいます。

教育指導課長)

それでは、私から教科書の審議の方法について、説明させていただきます。本日午前中は、算数、家庭について、選定資料と実際の教科書を見ていただきます。まず、私の方から、選定資料について説明をさせていただきます、そのあと、委員の皆様には教科書を見ていただく時間を取りたいと思います。見ていただいた後、審査をお願いいたします。

委員長)

意思決定の方法については、豊島区教育委員会会議規則第29条に規定されております。小学校使用教科書につきましては、記名投票により行いたいと思いますが、いかがでしょうか。(委員全員 異議なし)

それでは、各委員は、報告を受け、審議を経たのち、記名投票により、採決を行います。なお、その際、票が分かれ、過半数を超えるものがない場合は、投票数の多いものを尊重しつつ、再度審議し、意思を決定したいと思います。

また、本日は、過半数を超えるものがあつたかどうかのみを確認し、採決の結果については、8月24日の定例会で確認したいと思います。選定の前に事務局より何か報告等がございますか。

教育総務課長)

一昨日もお話しいたしました通り、教育長をはじめ教育委員の皆様事前に教科書にお目通しいたぐために、区役所分庁舎の教育委員会室に教科用図書1セットを7月20日から7月26日まで展示いたしました。各委員の皆様には2日間から4日間にわたって事前にお目通しいたぐしました。

委員長)

それでは、小学校算数についてご説明ください。

<教育指導課長、指導主事 算数資料説明、委員 算数図書閲覧>

委員長)

それでは、小学校「算数」について、ご意見、ご質問をお願いいたします。

委員)

算数の問題を増やすために、ワークブックなどは別に使っているのでしょうか。

指導主事)

副教材として、計算ドリルをほぼ全学校で使用しています。

委員長)

学校によっては、復習や発展のためにプリント等も用意していると思いますが、実際の現場ではどういう状況なのでしょうか。

指導主事)

各学校独自でプリントを用意するなど工夫をしています。

委員)

教師が個人の采配で、授業時間に問題を多く取り入れたり、副教材のみで問題数を多くしたり色々状況が変わりますが、問題数についてはどのように考えたらよいのでしょうか。

教育指導課長)

教科書の中に出てくる問題については、考え方について学び、基礎・基本を習得することに主眼を置いています。それを定着させるためには、繰り返しが必要になってきますので、教科書の中の練習問題や補充的な問題をセットしていくことになります。一番望ましいのは、指導者自身が自分で作って子どもたちに問題を示すことですが、問題の質や数を考えますと、ワークブック等や場合によっては家庭学習をしながら定着を図っていく工夫をしています。教科書会社によって、繰り返しの学習や定着に、数の力点のかけ方や姿勢が表れると思います。

教育長)

実際に教師が現場で授業をするとき、補充的に問題集を買ったり、ドリルを使うということは、算数に限って言うと、学年が上がるにつれて進度差やテンポの違いが表れてくる教科です。それにより、少人数指導など工夫をしております。早く問題を解き終わった子どもには、教科書以外の問題もやってもらったりして、ドリル等を使用することがあります。

委員長)

教科書展示会の時の意見として、算数の教科書は全体的に1ページあたりの文字数や数字量が増え、学習が遅れがちな子どもが教科書を見た時にどのような感じを受けるか心配ですとあります。能力差、進度差、進路別、課題別など色々な方法をとって指導をしていると思いますが、この意見に対して、事務局内で何か話題になったりしたのでしょうか。教育指導課長)

部会の中での指摘は特にありませんでした。本区は少人数指導を行っている学校もありますので、学習の状況によっては物足りなく感じている子どももいると思います。そういった子どもを少人数指導において対応し、じっくり学び、発展的なことを学んで、きめ細かく指導は行われています。

委員)

事前に教科書を見ているときはあまり気づきませんでしたが、改めて教科書を見ると印刷の色が気になります。教科書の中の答えのところが四角で囲ってあり、そこに色がついていています。日本文教出版ははっきりとした青ですが、それに比べると学校図書や大日本図書、啓林館は薄い気がします。他の会社の教科書と比べることはないですが、色に弱点のある子どもが見たとき、実際にどう感じるかが気になります。東京書籍は青ではなくえんじ色なので特に気になりませんが、こういった配慮も必要ではないかと思います。

また、算数以外のことと結び付けている教科書もあり、工夫されていると思いました。大日本図書は環境を、啓林館は6年生の下巻で、地球温暖化を取り上げています。学校図書は新幹線の運賃計算を取り上げています。数式だけではなく、幅広く学習していくことが必要だと思いました。

委員)

学校図書の6年生の下巻の下にさらに下巻がありますが、これは選択なのでしょう。統括指導主事)

中学校との接続ということで、6年生には「中学校へのかけはし」という別冊がございます。数学に興味・関心がもてるように工夫されていると思います。

委員)

別冊なので、時間がなければ扱わないこともあるのでしょうか。

統括指導主事)

応用発展的なものという考えだと思います。

委員)

「中学校へのかけはし」を使っていただくと、数学への興味・関心につながると思います。時間数を考えると難しいと思いますが、扱うことによって効果が生まれると思います。また、目次も見やすいと思います。

東京書籍の3年生には、ノートの作り方が出ています。今後の学習の参考になると思います。

啓林館の6年生の下巻にも、中学校への旅立ちということで、ページが設けられています。中学校の数学を意識した構成になっていて工夫されていると思いました。

委員)

印刷の薄さというのは、あまり問題にはならないのでしょうか。

教育長)

濃淡がはっきりしている方がいいと思います。視力が弱い子どももいますので、見えにくいのは困りますが、これは比較をしてみないと分からない問題です。私たちがきちんと見極める必要があると思います。

私は、本区の課題という立場から3つの視点から見させていただきました。まず、入門期の算数の出会いということに関して、算数嫌いな子どもをつくらないことが大切です。1年生プロブレムもありますので、それも考えていかなければなりません。東京書籍はじっくり遊んで眺められる構成になっています。生活の中で数詞を見つけ、数に対する認識を持たせてから、学習に進むようになっていきます。そして、ゼロの扱いがうまく示されていて、ページ数もたくさん使っています。教育出版もほぼ同じ構成ですが、ややゼロの扱いが弱いように感じます。日本文教出版の特徴は、生活の中から数字の発見をしようという点にあり、おもしろいです。ゼロの扱い方も丁寧です。学校図書は、最初から折り込みになっていて、1年生向きではないような気がします。書き込み式なのですぐ使えますが、子どもは書き間違いをすることもあります。すると教師も苦心してしまいますので、ノート指導をしていくべきだと思います。啓林館もたっぴり遊んで学べるようになっていますが、書き込み式なのが気になります。ゼロの扱いはいいと思います。大日本図書は、ゼロの扱いがあいまいです。

次に学力テストの結果、本区の子どもたちの弱点として指摘された図形に関する単元の取り扱いですが、東京書籍は左に問題を示して考えさせています。立体の実物を示すのではなく、展開図で示したり、バランス良く基礎的な問題、発展的な問題という構成になっています。問題数が少ないという意見がありましたが、問題数は関係ないと思います。質がバラエティに富んでいて、思考力を誘うという点では、東京書籍は優れていると思います。

最後に発展という点では、本区は幼小中の一貫教育をしていこうと考えていますので、接続の問題は重要です。学校図書が別冊で設けていますが、斬新な取り組みで良いと思います。ただ、できたら1冊にしてもらった方が指導はしやすいです。教育出版は、ステップアップということで、接続というよりは、小学校のまとめをきちんとしようという観点です。学力テストにおいても、中学校1年生は小学校6年間でどれだけ学んだかという定着度をみているので、こういう形の方が、学力テストの結果はよくなると思います。反面、数学や算数の面白さを意欲的に扱っているのは、啓林館です。「中学校への旅立ち」ということで、負の数、方程式、関数、確率などをガイダンス的に紹介しています。

1つの単元を見ても、幼小中一貫した学力をつけ、弱いといわれている図形、思考力を

促すという点で多く工夫が見られる教科書がよいと思います。

委員長)

それぞれの教科書会社の工夫の観点が違います。基礎基本をきちんと定着させることが大切だと思います。それから活用、発展を図ることを考えると、丁寧に作られているのは東京書籍だと思います。写真や色合い、イラスト、図などが見やすく、バランスがよいです。他にご意見がなければ、記名投票に移りたいと思います。小学校「算数」について記名投票をお願いします。

< 委員投票、確認 >

それでは、皆様、ご確認いただきました通り、過半数を超えるものがありましたので、算数についての審議を終了します。 (委員全員 異議なし)

ここで10分間の休憩をとりたいと思います。

< 10分休憩 >

委員長)

それでは、臨時会を再開いたします。小学校家庭についてご説明ください。

< 教育指導課長 家庭説明、委員 家庭図書閲覧 >

委員長)

小学校「家庭」について、ご意見、ご質問はありますか。

教育長)

家庭科の専科の先生は何人いるのでしょうか。

教育指導課長)

常勤職員で家庭科担当の者はありません。はっきりした数字は持ち合わせておりませんが、非常勤職員が3、4校に配置されています。多くは担当が家庭科の指導をしています。

教育長)

本区の家庭科の課題として、3点ほど調べさせていただきました。食育が重要視されており、2社ともきちんと取り上げられています。調理実習は5年生から始まりますが、東京書籍の6年生には、例えば「まかせてね今日の食事」というように、学習のめあてが出ています。実際は「早寝早起き朝ごはん」の実態調査の中で問題になっていますが、20%くらいの子どもが食事をとってこない現状がありますので、そういう実態を克服できるようになってほしいと思います。自分で作ろうということが前提で、家族が喜ぶ食事を作ろう、その作り方のアドバイスが出ていて、調理計画を立てて実際に調理するという流れになっていて、丁寧に図解で示されています。そして、食事をもっと楽しくするためにどうしたらいいか、主体的な参加型の構成になっています。開隆堂は6年生で、バランスの良い献立を考えようということで参加型なのですが、ややノーマルで、自分が参加しなくても母親の献立の立て方を見ながらでも出来てしまうような気がします。野菜などの切り方や技能的なことが部分的にしか載っていないので、東京書籍の方が丁寧に扱っていると思います。

次に早寝早起き朝ごはんに関しては、開隆堂はページをたくさん使って実態を解明しようという取り組みをしています。

最後に、消費生活についてですが、東京書籍は「買い物とくらし」という項目になっています。お金の使い方や物の選び方を見つめようということで、計画的に物を買うことを学んで、小遣い帳を含めて自分の買い物を振り返ることを取り入れています。高学年になると移動教室等がありますので、お土産を買うなどお金を扱うことがあります。ただ、お金をごく当たり前に扱っているのに、教科書のようなパターンのままいくのかという少し疑問です。見直しという意味では良いですが、実態とは離れているような気がします。開隆堂は、「上手に使おう 物やお金」となっていて、消費者教育を焦点化して取り上げています。こちらの方が子どもの生活の実態に即して、買い物をする際はどのようなマークに気をつけたらよいかや、値段や品質について取り上げているので、丁寧だと思います。

つまり、単元によって、優れている部分が異なっています。家庭科は2時間続けて授業をやらざるをえない状況が多いので、家庭科室の使い方もありますが、問題解決型だけでも、あらかじめ先生が学習のめあてを設定してしまうことが、やや共通する難点です。両社とも課題はありますが、もっと子どもたちに考えさせて、家庭生活に参加させるような家庭科のあり方が課題として問われていると思います。

専科の先生からは開隆堂は評価が高いのですが、やはり難しい部分もありますので、担任の先生が使い勝手が良いのは東京書籍だと思います。

委員)

食育と環境については、東京書籍が丁寧に書かれていると思います。

委員)

先ほどお話があったように、家庭科の授業は担任の先生が行うことの方が多いようですので、調理よりは家庭のだんらんから勉強を始めた方がいいのではないかと思います。環境に関しては両社とも触れておりますので、他の教科との連携を考えると、オーソドックスな流れとなっている教科書の方が使いやすいのではないかと思います。

委員)

家族とのつながりについてですが、東京書籍は祖父母と一緒に暮らしていない設定になっていますが、豊島区はお年寄りが多いと思いますので、どちらが子どもたちの実態に合っているのか、これを授業でどのように使うのか気になります。朝食のリズムという点では、1日の中で朝食が大切であるということが上手に取り上げられていると思いました。

開隆堂は、祖父母と一緒に暮らしている設定ですが、家族とホットタイムというところでは、だんらんでご飯を食べている様子が描かれています。だんらんはご飯を食べることだけではないので、つながりや家族の意味をもっと広げるような考え方を工夫していただけたらいいなと思いました。家族の概念は従来と異なってきているので、写真などももう少し工夫するべきだと思いました。

委員長)

すべての概念を網羅する教科書はないと思いますが、大事なことは、担任の先生が家庭科を教えている現状が多いということです。すると、5、6年生の担任は男の先生が多いので、いかに教科書を使って学習を進めていくかということを考えなくてはいけないと思います。学習のめあてを明確にすると、東京書籍の方が順を追って3つくらいずつ載せています。家庭科の授業を通して、実生活に結び付けていくということが大きなねらいだと思いますので、うまくまとまっているのは東京書籍だと思いました。

教育長)

今回の学習指導要領で言われていることは、生きる力をどうつけていくかということです。実際は多様な子どもがいて、さまざまな環境に置かれています。高学年になったら、自分のことは自分でできる、食事も作ってもらえないときは自分で作れるよう、ある程度の調理は自分でできる力をつけてほしいと思います。自立した人間形成ができるよう、学校も自覚を高めて、しっかりした指針をもってほしいと思います。教科書を生かして授業をしていただきたいと思います。

委員長)

それでは、記名投票に移りたいと思います。小学校「家庭」について記名投票をお願いします。

< 委員投票、確認 >

それでは、皆様、ご確認いただきました通り、過半数を超えるものがありましたので、家庭についての審議を終了します。 (委員全員 異議なし)

以上で午前中の審議及び採決を終わります。採決結果の確認は、先ほど申しました通り、8月24日の定例会において行いたいと思います。なお、本日午後1時より、小学校理科の教科用図書採択を行います。それでは休憩に入ります。

< 昼休憩 >

委員長)

それでは、第9回教育委員会臨時会を再開いたします。ただ今から、平成23年度用豊島区立小学校使用教科書の審議を行います。配布資料の確認を事務局からお願いいたします。

< 教育総務課長 資料説明 >

委員長)

それでは、小学校理科についてご説明ください。

< 教育指導課長 理科説明、委員 理科図書閲覧 >

委員長)

小学校「理科」について、ご意見、ご質問はありますでしょうか。

委員)

太陽観察、天気を調べるとき、水の流れを知るときなどは、校庭や屋上に出て授業を行

っているのでしょうか。

指導主事)

太陽の動きを調べるときは、屋上に行って、定点観察をしたりします。水の流れを調べるときは、雨が降った後、土のグラウンドだと校庭に出て観察することもできます。外に出て、活動はよく行っています。

委員)

学校図書は写真が見やすく、巻末に考えよう、調べようということでわかりやすく書かれています。各学年の最後にもうすぐ6年生など、新学年で勉強することが簡単に載っていますので良い構成だと思いました。啓林館に理科から仕事に結びついたことが載っていて、面白いと思いました。理科という学習が将来の仕事につながることは、興味・関心を引く内容だと思います。

委員)

理科の実験をするとき、準備はどれくらい時間がかかるのでしょうか。豊島区には理科支援員がいると思いますが、十分足りているのでしょうか。

指導主事)

理科の専科の先生がいればいいのですが、現状は担任が授業をしています。例えば、1時間目が国語、2時間目が算数、3、4時間目が理科となると、中休みを利用して準備をするというのが実情です。昨年までは理科支援員がいたので、配置ができた学校は、実験の準備や後片付けがスムーズにできたと思います。教科書の中に、実験の準備の仕方や器具の用意の仕方が出ているのは非常に役立つと思います。

教育長)

理科の実験の準備には時間がかかるということで、人的配置もしていますが、今回の学力テストにおいても、問題解決的な能力については落ち込んでいます。10年ほど前は学習支援員はいませんでした。教師は科学的思考力を育てる指導法を身につけていました。どこが異なるのかということですが、今回の学習指導要領の改訂でもそれは重要視されていて、問題解決的な学習、特に理科は実験に裏付けられて科学的思考を身につけていくということが大事です。理科離れを改善していく重要なポイントだと思います。

6年生の環境という点から見ても、学校図書は全学年が大判でページを広く使っているため、必要な情報が十分に出せます。生活とリンクさせて、自然環境を守るためにどうしたらいいかが載っています。東京書籍は暮らしと環境ということですが、もっと広くページを使って、写真の載せ方をもう少し工夫したらいいと思いました。大日本図書も大判で、地球環境から生物との関係が載っていますが、その後の展開がやや不自然な気がします。他社も同じような構成だと思います。

科学的思考は「おかしな」、「すごいな」という感動のもとに生まれてきた好奇心を組織して問いをもたせて、それを解決するためにどうしたらいいか、そこから調べ学習に入って、子どもたちがそこから得た答えを自分の言葉で表現していくという問題解決学習

が基本だと思います。

また、入門期についても見てみましたが、学校図書は生活科で町を探検して、人との関わりを見てきました。今度は、同じような手法で、自然の観察をして、町で取材をします。観察の仕方や目線の当て方などが上手に構成されていると思います。教育出版は、自然観察が出ていますが、少し難しい感じがします。いきなりタンポポを探してみようというのではなく、もう少し生活と密着させた方がいいと思いました。観察の仕方やカードの使い方は適切に表現されていると思います。他には、自然を強調しすぎて、子どもの目線で見られるか疑問をもちました。誇張しているのは分かるのですが、子どもにはそう見えないと思います。実態がうまく反映されていないのではないかと思います。

委員長)

環境と人との関わりがうまく表現されているのは学校図書だと思いました。巻末に分野別に整理がされているので、現場では使いやすいと思います。内容はさほど違いはありませんが、写真や構成が十分できているのは東京書籍だと思いました。

こういったことを視点としながら採決に移りたいと思います。それでは、小学校「理科」について記名投票をお願いします。

< 委員投票、確認 >

それでは、皆様、ご確認いただきました通り、過半数を超えるものがありましたので、理科についての審議を終了します。 (委員全員 異議なし)

ここで、10分間の休憩をとりたいと思います。

< 10分休憩 >

委員長)

それでは、臨時会を再開します。小学校生活についてご説明ください。

< 教育指導課長 生活説明、委員 生活図書閲覧 >

委員長)

小学校「生活」について、ご意見、ご質問がありましたらお願いいたします。

委員)

生活は1、2年生の教科ですが、1年生が学校に慣れ、体力的にも変化が出るのは夏休み明けくらいなのでしょう。

指導主事)

1年生は入学すると、最初から授業は丸1日ではありません。給食もありませんので、徐々に慣れながら学校生活を送ります。ゴールデンウィーク明けくらいから、一通りの授業を経験しますので、ぐっと変わってきます。そして1学期の修了式で通知表をもらい、夏休みを経験して、9月にはさらに変化が出てきます。

委員)

生活は週に何回の授業なのでしょう。学校探検などは、1年生は、文字がしっかり読めるようになってからするのでしょうか。

指導主事)

生活は週3時間程度学習をします。1年生は学校探検をしますが、そこで知ったことを生活科だけでなく国語科で表現したりすることもできますので、1年生にとっては重要な教科です。

委員)

大単元の構成だと、どこの単元から入ってもいいと思いますが、それ以外は上巻から始まって下巻に終わるということでしょうか。

教育長)

そうではないと思います。大単元とは、例えば、子ども同士の係わりを重視した括り、地域の自然や地域社会の様子のかきりということですので、季節が違ふのにそれを無視したところから学習するということはないと思います。

生活科は気づきや自然に対する認識を大切にすることを通して、道徳性の育成を確保していきます。学習活動を通して学び方としてのスキルを習得していこうということがねらいです。言葉ありきではなく、行動ありきで教科書が編成されています。生活科は理科や社会の基になるとともに、総合的な学習にも生きてきますので、行動を通して知的好奇心や問題意識をもって、探究心を育ててほしいと思います。

そして、1年生プロブレムにどう対応しているかという点から見てみました。本区の教育ビジョンを作るにあたり、人と人との関わりが薄れている、地域社会と学校のかきりが弱いという指摘がありました。それが生活科とどのように関わっているかを考えました。地域社会との関わりがどれくらい単元として扱っているかを見ると、多いからよいというわけではありませんが、啓林館が103箇所、日本文教出版が61箇所、光村図書が34箇所、教育出版が85箇所、学校図書が46箇所、大日本図書が72箇所、東京書籍が110箇所あります。幼稚園・保育園に触れているのは日本文教出版のみです。1年生にとっては学校はとても大きいもので、情報を見てもそれが描かれています。大日本図書もそれが描かれています。すべてが楽しい様子で現実的ではありません。日本文教出版は楽しい子もいれば、けんかをしている子、泣いている子などが描かれていて、より現実的な様子が描かれています。こういったものから、子どもにじっくり聞いて、子どもの考えを引き出すことが大切だと思います。

コミュニケーション能力という点から見ると、光村図書の探検活動には吹き出しがなく、子どもの気持ちを引き出すにはとてもよい教材です。それを発展させていく上で地域に探検に出ますが、日本文教出版も学校図書もインタビュー形式で、それを子どもたちがまとめていく形式をとっています。問題意識をもたせて、インタビュースキルを身につけ、実践をして、集約をするという問題解決行動にもつながる流れになっています。学校図書は地図作りにつながっていくので、そこまでは難しいと思います。人とじっくり関わって、コミュニケーション能力を培っていく活動をもう少ししてもらいたいと思います。

資料の扱いについては、きちんと季節を追っていく必要があると思います。栽培活動を

見ても、朝顔やひまわりが種からどう変化していくのかということを追っているのは教育出版や日本文教出版です。こういった流れを示した方が、子どもが考え、それを捉えることができると思います。

安心・安全という点では、地域探検に出る際についての扱いを見てみましたが、各社とも交通安全や地域のルールを徹底するということが記述されていて良いと思いました。

委員)

光村図書は文章が少なく写真が多いので、先生によっては時間をもてあましてしまうこともあるかもしれません。ただ、花の栽培活動をホップ・ステップ・ジャンプということで順を追って説明しているのでわかりやすいと思います。

委員長)

教科書の構成として、大単元なのか、季節で括るのかなど論議はありますが、書いてあることだけを学ばないわけではないので、必要最小限の情報があって、それをもとに学習を深めていくということが重要だと思います。判の大きさも問題となっていますが、やはり質が問題になってくると思います。他にご意見がなければ記名投票に移りたいと思います。それでは、小学校「生活」について記名投票をお願いします。

< 委員投票、確認 >

皆様、ご確認いただきました通り、過半数を超えるものはありませんでしたので、生活について再審議を行います。冒頭でもお話した通り、再審議を行うにあたり投票数の多いものを考慮するとのことですので、光村図書と日本文教出版の2社について、再審議をしたいと思います。

それでは、5分ほど時間をとりますので、論点整理をお願いいたします。

< 委員 生活図書再閲覧 >

委員長)

では、光村図書と日本文教出版の生活科図書について、ご意見はありますでしょうか。

委員)

やはり、光村図書は文章が少なく、写真ばかりのような気がします。先生によっては、文章で説明があった方が授業は進めやすいのでしょうか。

教育長)

発達段階で言うと、1年生は話し言葉が中心ですので、語彙数は2000語くらいだと思います。学習や人との関わりを通して、飛躍的に語彙数が増え、書き言葉も覚えていきます。生活科で重視しているのは、人と関わる上で重要なのは言葉であって、それがうまく表現できないと、手が出たりけんかをしたり、1年生プロブレムへとつながってしまうのだと思います。教科書に説明文が少なく、写真や資料だけで、全ての教員が授業を展開していく力量をもっているかという点に難しいように思われます。発達段階に応じて言葉をかけたり、子どもの大事な発言を引き出すポイントは教科書に指示があってもいいと思います。光村図書は、子どもの感性を引き出すという面ではとても魅力ある教材ですが、必

要な情報が写真に含まれていないと子どもにも伝わりにくいと思います。

委員)

日本文教出版は、後ろにまとめがあります。特にあいさつは基本ですし、「学校はどんな所かな」という場面では、絵と写真でリアルに表現されています。光村図書の季節についてのところは、国語としての教材の部分が強いと思います。

委員)

日本文教出版の最後のページのところに、諸外国の子どもたちの絵があります。本区には外国の子どもも多いので、配慮がなされていると思います。

委員長)

子どもたちの自由な発想や思考を大事にしたいと思います。教師の力量にもよりますが、本来であれば、光村図書のような扱いで生活科のめあてである、人との関わりや理科・社会につながる学びをしてほしいと思います。それでは他にご意見がなければ、採決に移りたいと思います。

< 委員再投票、確認 >

皆様、ご確認いただきました通り、過半数を超えるものがありましたので、生活について審議を終了します。

教育長)

この3日間を通して豊島区の教育課題について多方面から整理することができました。各社さまざまな工夫をされており、どこの教科書がよいというよりは、豊島区の子どもたちにとってどれが適しているかという観点から選定いたしました。事務局としても、これから整理していかなければいけないことがたくさんありますので、新たな問題提起をしていただき、子どもたちに還元していきたいと思います。

委員長)

以上で小学校の教科用図書の審議及び採決を終わります。なお、次回予定しておりました8月3日の臨時会は、審議が順調に進みましたので、中止とさせていただきます。従いまして次回の教育委員会は8月24日に実施いたします。その際、採決の結果を確認いたします。よろしくお願いいたします。

( 委員全員異議なし 第39号議案次回へ継続 )

( 午後3時10分 閉会 )